

◆teku-teku 2014-15★上池袋密集市街地+山田荘プロジェクト企画(活動記録+評価結果)◆

企 画■アートのまちづくりを歩く(5) ～山田荘プロジェクト/かみいけツアーに参加する～

日 時■2014年12月6日(土) 13:00～15:00

(a) 山田荘(豊島区アートステーションY) オープンハウス+上池袋密集地のまちなか散策

■2015年1月25日(日) 15:00～18:00

(b) シンポジウム「都市のすき間～文化芸術の生まれる場所」(於:コア・いけぶくろ)

■2015年3月1日(日) 14:00～17:00

(c) プラクティス～大きな家に暮らすための9の作法～(まち歩き+トークイベント)

参加者■井手幸人、大竹柊子、大竹 亮、加藤仁美、栗原 徹、鈴木丞治(以上6名、敬称略、一部参加含む)

主催者■中崎 透(アーティスト)+山田絵美(teku-teku) ほか

企画主旨■豊島区アートステーションY(上池袋の山田荘)では、上池袋の密集市街地にある木造アパートを活用し、アーティストが滞在・製作・展示し、様々な人が集まる「まちのラウンジ」のような場を目指しています。防災上危険な密集市街地で、あえて建替・不燃化せずに既存木造アパートを活用することは時代に逆行しているとも言えますが、一方でこの街にとって大切な何かをもたらす可能性を持っているようにも思えます。今回、オープンハウス、まち歩き(かみいけツアー)、ガレージセールが開催される山田荘を訪ね、上池袋の密集市街地を歩いて体感しましょう。また、都市におけるアートの可能性を探るシンポジウム「都市のすき間～文化芸術の生まれる場所」にもあわせて参加し、さらに山田荘プロジェクトの集大成である「プラクティス」を実体験して、今後の木造賃貸住宅地区の将来とまちづくりについて考えてみましょう。

<参加者の意見・評価>

1◆上池袋4丁目の街を歩いて感じたこと

評価A●

評価B●一見して普通の街だが、よく見るとなかなか味わいがある。密集市街地は人々の生活の匂いが感じられ、それが街の面白さになっている。

評価B●何の変哲もない東京の普通の街。都心ビル街と郊外住宅地の間の内部市街地には、こうした住宅や町工場が密集した街が広がる。近隣商店街やコミュニティがあってヒューマンスケールで暮らしやすいが、商店の閉店や居住者の高齢化が進行する。近年、マンションやミニ戸建が急速に増加しているが、旧来の住宅と違って道路に対して閉じている(中間領域がない)ので、街がよそよそしく殺風景になりつつあるのが残念だ。

評価B●一敷地に埋め込まれたアパート群、使い続けるための工夫が垣間見られて面白かったです。木質アパートの方がワンルームマンションより維持管理が行き届いていてビックリ。

評価B●密集市街地ならではの少し不思議な場所や面白い発見があり、歩いて楽しかったです。

評価一●木造住宅密集市街地の最前線という印象を持ちました。昔ながらの小さな家屋やアパートが寄り添って並ぶ佇まいと、現代的なミニ戸建や防災広場など、合理性や防災を重視した空間づくりという時代の波がぶつかっているエリア。特に、小さな敷地に塀や階段、植栽などのしつらえのある住まいの形と、無味乾燥な姿で道に対して裸同然に建っている現代住宅の形に、大変がっかり。その変化の中でも、無邪気に走り回る子供たちに、希望を見出しました。



小さな木造住宅が密集する上池袋の街



街を縦横にめぐる路地のネットワーク

## 2◆山田荘プロジェクト（豊島区アートステーションY）について

評価A●非常に居心地のいい場所になっている。古い木造アパートといえば低水準の住居の代名詞だが、2部屋をぶち抜いたり、母家との間の屋外通路にウッドデッキを敷いたり、室内の壁を塗ったりしたことで、見事に生まれ変わった。様々な可能性を持つ場として再生されたので、今後の活用を大いに期待したい。

評価B●木造アパートを活用し、密集市街地でアートを展開するという試みは、非常に意欲的。

評価B●これからが楽しみ。次におじゃまする時には、どうなっているのでしょうか？

評価B●現在進行形であり、今後の改良を見越しての評価です。

評価B●雨の中、街を歩いたあと帰ってきたときに、あたたかい安心感がありました。親しみやすいアートステーションとして、人々が集まりそうだと思います。

評価一●周辺に開かれた大きなデッキが印象的。近所の方々に集まれる空間になりそう。



ウッドデッキが敷かれた山田荘の入口



山田荘の室内に設けられた壁一面の黒板

## 3◆中崎透「プラクティス」という試みについて（3/1 参加）

●町全体をギャラリーのように見立てて、あちこちにあるユニークな場所を芸術作品として名付けて鑑賞するという試みは面白かった。日常をアートに、アートを日常にすることによって、人々の関係やまちづくりの可能性を広げていくことができるのではないかと考えることができた。

●アートプロジェクトではあるが、アートを造るのではなく街そのものをアートに見立て、まち歩きを通じて街そのものを体験させているところが面白い。

●街には多くの情報が眠っており、それを引き出して体験してもらうという趣向は、とても刺激的だった。

## 3◆山田荘は、町にとってどういう場であってほしいですか、そのためにはどうしたらいいのでしょうか？

●町の人と外の人をつなぐことで、町に刺激を与える場になってほしい。そのためには、外の人を呼ぶことも重要だが、山田荘プロジェクトが多くの町の人々に受け入れられることが大事だと思う。

●居心地の良さを活かして町の人々が集まる場になればいいと思います。また、積極的にアートや文化を発信する場になってほしいです。

●ひとつは街のたまり場、交流の場として、公民館よりも自由に近所の人々が立ち寄ったり、多目的に利用できたりするといい（コミュニティ再生の場）。もう一つは街の異空間、刺激の場として、外部の人もやってきて訳のわからないアートが出現するなど、現状打破の想像力を育むような役割を期待したい（街の変革の起爆剤）。

●バーベキューや線香花火、ベンチで歓談のできる居場所であってほしい。

●往年の南長崎にあった“トキワ荘”のように、若く才能のあふれる方々のたまり場になればと願っています。

●他の場所にもこうしたプロジェクトが連鎖していくといいですね。それがネットワークして人が行き交い、街が変わっていく・・・。

## 4◆上池袋の街は今後どうなってほしいですか、そのためにはどのようなまちづくりが必要でしょうか？

●道路整備などによって防災安全性を高めつつも、部分的には路地や木質アパートなどをうまく活かして、街のコミュニティが持続・発展するようなまちづくりができるといい。

●空家や空地を活用して、近所の方たちで交流できる居場所づくり、皆で管理しながら使っていく広場づくりが広がっていくといい。いざという時に、それが防災や避難に有効なスペースになるのでは。

●高齢者の方々が独自性を保ちつつ安心して住める街になって欲しいですし、そのためには町内毎にケアサポートを兼ねた集会所などが整備されるべきだと思います。



- ヒューマンスケールな空間と昔ながらのコミュニティがあり、安心して暮らしやすい街であり続けてほしいと切望します。そのためには、分譲住宅（マンションやミニ戸建）でなく、小さな敷地と路地を残し、建物が道に面して開かれ、人々の出会いとふれあいを自然に触発するような空間構成が必要ではないでしょうか。
- 山田荘プロジェクトが触媒となれば、なにかが動き出す。こうした街には、こうした活動が必要。

## 5◆密集市街地の再生のためには、木質アパートをどうしたらいいと思いますか？

（現在は、除却し不燃建築への建替を促進すべきとされていますが）

- 従来の木質アパートは、若年単身者が多く住んでいたこともあり、街に対して閉じた存在であった。建て替えるにせよ、リノベーションにせよ、ハード・ソフトともに街に対して開かれた存在に生まれ変わってもらいたいものだ。（街に開いた点で、山田荘プロジェクトは画期的）
- 木質アパートは密集市街地の中では比較的敷地が大きいので、相続等で売却されると数棟のミニ戸建になってしまうケースが多く、不燃化は進んでも市街地環境は悪化する。現状の敷地規模を維持し、建替やリノベーションにより、1階部分に地域の共用的スペースを確保した新しいタイプのシェアハウスにできないだろうか。
- 場所、条件によって色々な再生パターンがあると思いますが、都心でのリノベの事例が増えるといいですね。
- 実際には、法的に既存不適格なものが多いので、なかなか手の付けられない状況だと思います。
- 難しい問題。建て替え促進はやむを得ないか。ただし、学ぶべきデザインソースを活用して、新たな空間づくりをすべき。（周囲を広場のようなオープンスペースにすれば、ある程度の維持保全は可能か？）

## 6◆シンポジウム「都市のすき間～文化芸術の生まれる場所」(1/25)の感想

- 参加者が多い（約100名）のに驚いた。豊島区アートステーション構想における山田荘プロジェクトの位置づけ（街の活性化の契機）がよく理解できた。谷中 HAGISO、吉祥寺オンゴーイング、水戸遊戯室など、多彩なリノベーションによるアートプロジェクトの想いと狙い、そして運営方法や収支計画などそれぞれ異なる工夫が興味深かった。採算ベースでの空家活用のための有力かつ有効な方法だと認識できたのが収穫だった。
- 第一部では、山田荘プロジェクトの木造アパート活用についてとてもよく分かった。ウッドデッキのテラスやガレージセールなど、とても楽しそうだった。一方、街の記憶や個性的な文化を守ることの難しさも分かった。第二部では、三人それぞれの話を聞いて、芸術と街との関係の多様な在り方と可能性を考えることができた。芸術や文化、住民の交流を大切にするまちづくりのために、アートスペースは大切な場だと思った。



山田荘から出発するかみいけツアー



路地に沢山のみどりを並べる住宅を発見



さらに路地の奥深く歩き込んで街を探索



街を歩き終わってのまとめと意見交換

## 7◆その他、今回の企画に対する感想など

●オープンハウスとまちなか散策の組み合わせは、建物自体の意味と街に対する役割の両方が実感できるので、立体的な企画になってとても面白かったです。かみいけツアーの特に後半のマニアックなコースに、わくわくしました。歩いた後のトークも、アットホームな雰囲気でしみじみ心地よかったです。今年度は、オープンハウス、まち歩き、シンポジウム、アートプロジェクトと多彩な一連の活動でしたが、今後の地域での展開に期待します。(O・R)

●アートプロジェクトだと思って今回の「プラクティス」に参加したが、結果的に TEKU・TEKU のまち歩きとよく似たものになっていた。街は生活の場であるとともに、アートでもあることが判って非常に面白かった。(K・T)

●初めて山田荘に行ってみて、木賃アパートの雰囲気やあたたかさが心地よく感じました。昔ながらの建物と新しい文化が融合した良いアートステーションだと思いました。(O・S)

●木造住宅密集のまちは楽しい。色々な発見がある。プロジェクトが進んだらまた企画して下さい。(I・Y)

●いつも楽しい企画をご案内いただき、ありがとうございます。濃密な街歩きの後には、もう少し皆様方との意見交換をする時間があまりなかったのが残念でした。今後ともよろしくお願いします。(S・J)

●大変有意義な視察でした。来年もよろしくお願いいたします。(K・H)

### ■コーディネイターより

昨日は、寒い中まち歩きにお付き合いいただき、ありがとうございました。お陰様で本日のガレージセールも50名くらい、昨日とあわせ、のべ100名弱の方々にお越しいただきました。商店街も無くなり、池袋に近いという利便性のみで選ばれがちな上池袋界隈ですが、もう少し違う価値付けをしていきたいと思っています。今後、上池袋地域をはじめとした木造賃貸アパートの価値付け、活用について考える、もくちん研(仮)を発足させようと考えています。また、みなさまのお知恵を拝借することがあろうかと思いますが、その際はどうぞよろしくお願いいたします。この度はありがとうございました。(2014/1207 Y・E)

